

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クレヴィア池田 新築工事	階数	地上12F地下0F
建設地	大阪府池田市姫室町	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種中高層住居	平均居住人員	83 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年2月13日
敷地面積	805 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社エム・ケイ設計事務所代表取締役桂政親
建築面積	303 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月28日
延床面積	2,672 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社エム・ケイ設計事務所代表取締役桂政親



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Qのスコア = 3.0**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

#### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 3.7**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	敷地内には可能な限り緑化を設けたほか、敷地入口付近に樹木を計画することで、周囲に溶け込む建物となるように配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	開口部は、採光が十分確保できる大きさとし、快適な住環境となるように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー	建物全体の断熱性能を高めるとともに、LED照明を採用し、エネルギー消費の低減に努めている。	LR3 敷地外環境 広告物の照明は避けて、屋外照明を計画し光害対策を行っている。
Q2 サービス性能	特になし。	
LR2 資源・マテリアル	省資源化に配慮し、躯体以外にはリサイクル材を採用したほか、断熱材にはODPが低いものを使用した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)クレヴィア池田 新築工事					
	建設地	大阪府池田市姫室町					
	用途/区分	集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

<b>エネルギー消費量の報告</b>	<b>対象外</b>
--------------------	------------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.2	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		